

みんなで被災地の頑張りを応援しよう 震災被災者支援ニュース

京滋・奈良ブロック
震災対策本部

第17号
発行日2011年9月15日



第42回京都消費者大会 「東日本大震災」をテーマに 開催されました！

9月10日(土)午後、コープイン京都において第42回京都消費者大会『災害に備えるくらし・地域・社会』が開催されました。

第1部では、岩手県消団連事務局長の伊藤慶子さんから、これまで何度も「三陸大津波」に襲われた被災地の言い伝え、『津波でんでんこ』(津波が来たら即判断して、でんでんばらばらに逃げる)の紹介や、被災後の厳しい状況と復興に向けたとりくみなどが報告されました。

また、福島県消費者ネットワーク事務局長の佐藤一夫さんからは、大震災の被害に加えて福島原発による汚染の広がり深刻さが伝えられました。避難区域から逃れざるを得なかった住民の方々は見えない将来への不安をますます増大させていますが、避難区域から離れた地域の方々もまた様々な苦難を強いられています。その一つがいわゆる『風評被害』です。福島県の農業団体に「危険な農作物をつくるな」などのようなクレーム？電話がかかったり、他県のガソリンスタンドで給油拒否にあたりする事例が報告されました。『風評被害であれば、生産者にとって消費者が加害者になってしまう。加害者は東京電力のはずだ』と指摘されていました。

第2部「防災・減災－私たちにできること」では、神戸大学の塩崎賢明教授より「東日本大震災の被害と復興」とのテーマで講演があり、『復興は被災者の生活再建が最大の使命』との理念のもとに阪神大震災の教訓をふまえてとりくむこと、仮設住宅については従来型の応急仮設住宅でなく、自らの力で少しづつ

増築していけるような「自力仮設住宅」方式への支援の提案がありました。

第2部の後半は5人の「リレー発言」があり、大学生協から京滋・奈良ブロック学生事務局の十倉君が、全国大学生協連と、京滋・奈良ブロックによる被災者支援活動について報告しました。

台風12号被害に支援の輪広がる！

9月初旬、本州に上陸した台風12号による被害は、奈良、和歌山、三重を含む近畿圏に深刻な被害を及ぼしました。被害状況はテレビ、新聞によって連日報道されていましたが、奈良コープをはじめとする地域生協や日本生協連が支援体制をすすめてきています。

京都からも支援ボランティアを派遣予定

また、京都府災害ボランティア支援センターは、ボランティアバスを運行して現地にボランティアを派遣する準備をすすめており、第2陣(9月23～24日)分からは一般公募する予定となっています。

奈良の生協も炊き出し実施

9月11日には奈良県生協連、ならコープから17名のボランティアが奈良県天川村で炊き出しをしてカレーライス300食を提供しました。

奈良・和歌山・三重の生協連合同で 支援募金の口座が開設されました。

集まった支援金は三県の自治体に被害状況に応じて手渡されます。

【期 間】9月12日～10月31日

【口座番号】南都銀行南支店

普通口座 2 0 8 4 2 6 4

【口座名義】奈良県生協連台風12号災害
支援募金